

honeyee. MAG

Intelligence Service for a High Style

特集「カメラ」

ハニカムから生まれた
雑誌「ハニマグ」
スノースタイル3月号増刊 780yen



Camera Lucida



●日本が生んだ伝説のレーシング・ドライバー、生沢徹の娘として、幼少期からモーターレーシングの世界で育つ。広告制作、広告代理業務を行う「Bow Wow」をロンドンに設立。企画から制作に至るまでブランドの世界展開を手がける。<http://bowwowinternational.com/>

MAI IKUZAWA

生沢 舞 (クリエイティブディレクター)

「Mai(My) Friends + Cars。車は、人と人との繋げるもの」

ロンドンを拠点に活躍するクリエイティブディレクター生沢舞。彼女がこよなく愛するもの、それは「クルマ」。クルマとともにアクティブに生きる彼女のフォトライブラリとは。

「写真は、セントラル・セント・マーチンズに在学中に、グラフィックデザインの授業の一環として学びました。現在は「Bow Wow」のクリエイティブディレクターとして常に写真家の方々と関わっていて、彼らが写真を撮る姿を見て、どのように場面をコントロールして、その「瞬間」を捉えるのかということを間近で学んでいます。以前は暗室で自分の写真を現像することが好きでしたが、今は絶対にデジタル。デジタルにすることで無駄な時間を省く事ができるし、より実験的になれるからです。今回セレクトした写真は、ほんの一部ですけど、クルマがきっかけで知り合った友人を撮ったものばかり。あえてテーマをあげるなら「Mai (My) Friends + Cars」(友人たちとクルマ)ですね。写真を見ても分かるように、私にとってクルマに対する情熱とは文化であり、人と人との繋げるものでもあります。実際、これまでに私は車に対する共通の興味を共有することで、たくさんの友人を作ってきました。ですから、私のブログをお読みの皆さんに理解して頂きたいのは、「クルマはステータスの象徴やコレクターズアイテムとして見られるべきではない」ということです。クルマは実際に運転して、楽しむべきものなのです」



1 「私の親友であり、いどこでもRamdane Touhamitは、ファッションista、起業家として様々なプロジェクトで成功を取っています。彼は車の好きで、多くの車を所有しています。彼のゲットースタイルの運転を見れば、1マイル手前からでも分かります(笑)」

2 「Atelier Ruby HelmetsのJerôme Costeは親友であり、彼とは車やバイク、そしてデザインに関して共感する部分がたくさんあります。ボサボサの髪や髭、黒い服、気取らない魅力、クリエイティブな知性、そして個人的なテストの車など、全てが素敵ですね」

3 「プロダクトデザイナーとして多くの賞賛を受けているSebastian Conranは、ブリティッシュデザインの重要なパイオニア。この写真は、彼による日産キューブのリミテッドエディションの模型を撮影したものです。日本のデザインがいかに進歩し、世界的に尊重されているを示す上でも重要な写真です」

4 「ウェストロンドンにある、Ross Lovegroveのスタジオ。彼は一流のインダストリアル/プロダクトデザイナーで、2003年にGeneva Motor Showで紹介されて以来の親友です。「the Swarovski Solar Car」という、最先端の素材と構造的倫理に基づいた革新的なコンセプトカーを製作しました」

5 「日産自動車常務執行役員&チーフクリエイティブオフィサーである中村史郎さん。彼は世界で最も尊敬を集めるカーデザイナーの1人。父の古い友人であり、私の人生の助言者でもあります。彼はおそらく日本のカーデザインにおいて最も重要な方であり、すでに伝説的なインフルエンサーです」

6 「毎年イギリス・マンチェスターで行われている、世界で最も名声のあるカーイベントの一つ「Good Festival of Speed」。とてもチャーミングで、気取らない紳士Lord Charles Marchは、モーター界において最も重要なセレブリティです。彼は私のヒーローで、イギリスの自動車カルチャーのパイオニアとして知られています」

LUMIX GF-1



Lumixのなかでも人気のマイクロフォーサーズカメラ。約25.5mmの薄型レンズを付けたままでもレンズがカバンの中で邪魔にならない、スタイリッシュなボディ。一眼画質のハイビジョン動画機能のほか、「背景ボケ」などの様々なシーンモードを選択できる。デジタル一眼カメラならではの高い機能性はそのままに、スタイリッシュでスリムなボディを実現。